

朱鷺in佐渡

2012年5月9日

小林正行

- 佐渡
- トキ
- 新聞記事紹介
- 写真紹介





写真：佐渡観光協会



写真：NPO法人日本エコツーリズムセンター

トキ(朱鷺)

学名:

歴史:

- 1952年～ 特別天然記念物に指定
- 1980年頃～ 人工繁殖開始 ⇒ 成功せず
- 1990年 中国産トキで人工繁殖成功
- 2003年 最後の日本産トキ「キン」死亡
- 2008年～ 野生繁殖に向けて放鳥開始
(現在までに5回)

放鳥トキひな誕生

佐渡 自然界

環境省は22日、新潟県佐渡市で放鳥した国の特別天然記念物トキのうち、営巣していたペアから、ひなが誕生したと発表した。放鳥したトキからひながかえったのは初めて。自然界での孵化は1976年以来、36年ぶり。ひなの誕生でトキの野生復帰に向けた計画は新たな段階を迎えた。▼39面Ⅱ「1羽の可能性、無限大」

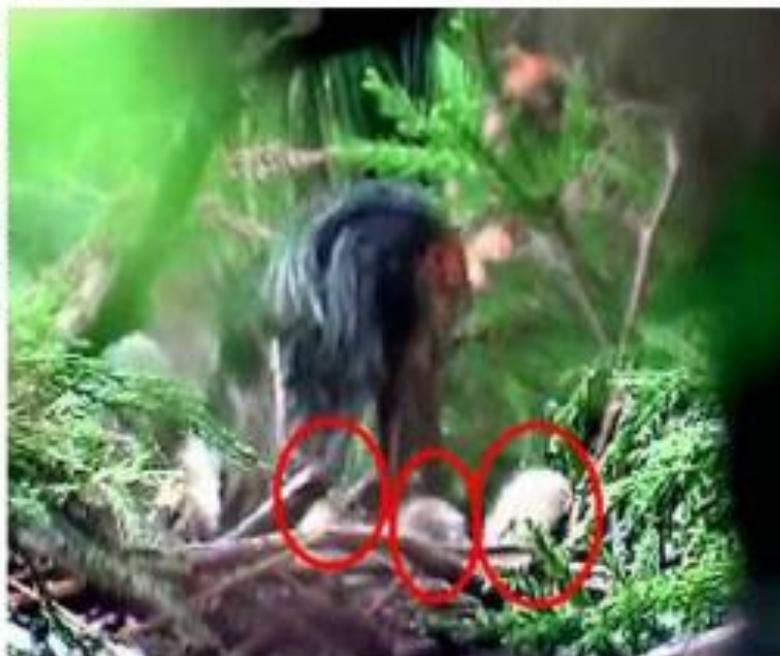
ひなが生まれたペアは3に作った巣を撮影したビデオカメラで撮影した。佐渡市内、オカメラの映像に、ひなが

映っていた。20羽で、間程度とこのペア。巣、同17日。13日からとみられ、環境省が巣カメラが



- 放鳥開始以来初めて雛が孵る(22日確認)
- 自然界での孵化は1976年以来(36年ぶり)
- 野生生息数は45匹(5/5現在)
- 現在15組がペアに
- 繁殖期は6月まで

親鳥とひな3羽―環境省提供



トキのひな 新たに2羽

環境省は23日、新潟県佐渡島で放鳥した国の特別天然記念物のトキで、ひなが誕生していることが22日に確認された3歳雄と2歳雌のペアの巣に、新たに、少なくとも2羽のひなが生まれていることがわかった、と発表した。

同省は23日早朝、ひなの様子を観察するために巣から40センチ離れた地点に小型カメラを再び設置した。同日夕に回収して映像を分析したところ、午前9時ごろの映像に、巣の中に少なくとも3羽のひなが確認された。いずれも親鳥か

ら餌を与えられている様子が見られたという。

新たに確認された2羽がいつ生まれたのかはわからないが、1羽は、22日に確認された体長約20センチの最初のひなとほぼ同じ大きさで、もう1羽はやや小さく、生後2、3日ほどとみられる。トキは通常、1日おきに計3～4個の卵を産むとされ、今月1日時点で4個の卵を産んでいることが確認されているため、4羽目が誕生している可能性もあるという。（川崎友水）

朝日新聞デジタルに動画



別のペアからも トキのひな誕生

- 別のペアから新たに1羽誕生
- 今季誕生したペアは計4羽に
- 抱卵が確認されているペアは6組

新たにひなが生まれたのは、5歳雄と3歳雌のペア。5日午前10時半ごろ、観察をしていた新潟大の職員が、巣の中でひなの頭を見つけ、親鳥がえさを与える姿勢をとっている様子も確認した。現時点では1羽しか確認されていないが、2羽以上のひながいる可能性もある。現在、抱卵が確認されているペアは6組おり、さらに多くのひなの誕生が期待されている。

トキひな成長 絶えず撮影

きょうからネット配信

環境省は4日、佐渡市で誕生した放鳥トキのひなの巣を常時観察できるビデオカメラを設置した。5日早朝からインターネットで配信され、世界中の人々がひなの成長をリアルタイムで見られるようになる。1日おきだったカメラ観察が毎日行われることで、瞬時に野生下でのトキの育雛状況を把握できる。

この日は同省の職員が巣がある林の中に入り、設営作業を行った。カメラは現在の撮影場所と同じ、巣から40メートル離れた地点の地上に設置。ただ巣は15メートルの高さにあるため、ひなの姿が映るとは限らず、夜間は見られない。

これまでは職員が早朝にカメラを設置し、夕方に回収する方法をとってきた。しかし、トキへの影響が大きいとして設置を1日おきに限定。カメラがない日は職員が林の外で親鳥が出入りする様子を観察するしかなかった。今回、電源を確保して映像配信用の機材を配置できるメドが立ち、常時撮影が可能となった。

映像は環境省のホームページ「放鳥トキ情報」などで視聴できる。長田啓・同省首席自然保護官は「常に観察できる態勢になったのは大きい。多くの人にひなが成長する様子を見てもらいたい」と話している。(川崎友水)

トキの卵 トビが巣で温めた

環境省は20日、新潟県佐渡市で放鳥された国の天然記念物トキのうち、卵を温めていた3歳雄と2歳雌のペアの巣にトビが現れ、トキを追い出して一時的に抱卵していたことを明らかにした。同省は「こうしたケースは聞いたことがない」と話している。

同省によると、このペアは平

親鳥を追い出す 佐渡、1時間半

地にある屋敷林のスキに巣をつくって卵を温めていた。20日午前6時ごろ、巣にトビが侵入し、抱卵していた雌のトキを追い出し、1時間半ほど卵を温め続けた。この間、雄のトキは近くの枝にいて、トビが飛び去った約1時間後に巣に戻り、再びペアで抱卵している。

この巣の近くにトビが営巣し

ていたことは確認されていた。長田啓・同省首席自然保護官は「自らの抱卵に失敗したトビが、何らかの理由でトキの卵を一時的に温めたのかもしれない」とみている。

佐渡島では現在、このペアを含めて11組が、抱卵しているか、抱卵の可能性があるとされ、自然界では36年ぶりとなるひな誕生への期待が高まっている。

(川崎友水)

ひな観察はできませんが…

佐渡に「トキ特需」

宿泊施設フル稼働

放鳥トキのひな誕生に沸く佐渡島は、大型連休と重なったこともあり、多くの観光客でにぎわっている。宿泊施設はフル稼働状態。客の減少に悩んでいた業界にとってはまさに「トキ特需」だ。一方で「ひなを見たい」との声もあり、関係者は「繁殖に影響があるので、巣に近づくのは遠慮してほしい」と呼びかけている。



飼育中のトキを間近で見学できる同市新穂長畝の「トキの森公園」には連日、昨年の2、3割増の700人以上が訪れている。個人客が多くなったのが特徴だという。東京都から家族で来た菊地由紀子さん(46)は「トキのひなが生まれたと聞いたので、佐渡に行ってみようかとなった。ひなは見られなけれど、トキを実際に見ることができてよかった」と満足そうだった。佐渡島を訪れる観光客は90年代前半の120万人をピークに年々減り続け、2010年度は54万人と半分以下まで落ち込んでいる。

- 放鳥トキの雛誕生によって、佐渡の観光業が大賑わい
- 宿泊施設はフル稼働
- 「トキの森公園」来園者数は昨年の2,3割増
- トキの雛を見たがる観光客が多くいるが、雛の営巣場所は非公開 ⇒ トラブルも...

以前にはようと営巣地観光客がトラブったこともあつたことか気分持ちはわか大切な時期見守ってほしい。(川崎友水)

営巣トキ 防風林16本に害虫被害

佐渡市、幹に薬剤注入へ

佐渡市の防風林に今春、

営巣した木の近くにあり、

トキのペアが営巣したため

薬剤散布を中止した影響と

害虫防除の薬品散布ができ

見られる。

なかった問題で、この防風

専門家の調査では、この

林内のマツ16本がマツクイ

まま対策を施さなければ林

ムシの被害を受けていたこ

全体に被害が広がり、3年

とがわかった。市は樹木に

以内に全滅する恐れがあ

直接薬剤を入れる「樹幹注

入」を始めるなど直ちに對

策をとるとしている。

ある木を中心に樹幹注入

28日に佐渡市であった

に注入するまでには3年か

「人・トキの共生の島づく

かるという。

り協議会森林・林業部会」

このため、市は樹幹注入

で明らかになった。市によ

と併せて薬品散布もしたい

ると、防風林にある高さ8

と考えているが、現在も防

〜18本のマツ16本がこの夏

風林にはトキが数羽生息し

にマツクイムシの被害にあ

ており、来春も営巣する可

った。多くがトキのペアが

能性が高いことから、どの

薬品が散布されず、マツクイ

ような形で散布できるかを

ムシの被害を受けた防風林。現在

検討していく。

もトキが生息している＝佐渡市



(川崎友水)

参考

- 朝日新聞
- 日本地図 <http://www.abysse.co.jp/japan/>
- 佐渡観光協会 <http://www.visitsado.com/>
- NPO法人日本エコツーリズムセンター
<http://www.ecotourism-center.jp/>
- 環境省HP「トキ」
<http://www.env.go.jp/nature/toki/index.html>
- トキの森公園パンフレット



於：トキ交流会館
写真：発表者撮影



於：トキ交流会館
写真：発表者撮影



於：野生復帰ステーション
写真：発表者撮影



於：野生復帰ステーション
写真：発表者撮影



於：野生復帰ステーション
写真：発表者撮影



於：野生復帰ステーション
写真：発表者撮影